公　園

「土地の記憶」を継承し、
臨海部に質の高い環境空間を創出

【長崎港内港再開発事業（常盤・出島地区緑地）】

事　業　概　要

２００４年グッドデザイン賞金賞受賞
土木学会デザイン賞２００６優秀賞受賞

長崎市常盤町、出島町
公園面積6.5ha、芝生広場（イベント広場）、水の劇場、野外劇場、
水路、プロムナード、３０数種の樹木、丘、レストラン等
環長崎港地域アーバンデザインシステムを活用してデザインを検討

長崎水辺の森公園

プロデューサー　：伊藤滋（早稲田大学教授）
ディレクター　　：篠原修（東京大学教授）、石井幹子（株式会社石井幹子デザイン事務所代表取締役）、上山良子（長岡造形大学大学院教授）、林一馬（長崎総合科学大学教授）、鈴木崇英（株式会社ＵＧ都市建築最高プロジェクト顧問）
デザイナー　　：株式会社上山良子ランドスケープデザイン研究所、株式会社石井幹子デザイン事務所、西村浩＋有限会社ワークヴィジョンズ、株式会社アーバンデザインコンサルタント、アジア航測株式会社、復建調査設計株式会社
※所属は、２００４年４月現在

整　備　の　背　景

急峻な斜面地という特徴ある地形に囲まれた長崎港は、かつては「鶴の港」と讃えられた美しい港であり、長崎は港とともに発展してきた。しかし、戦前、旧海軍の軍艦建造を隠すために臨海部に目隠し倉庫が建ち並んだため港を眺め憩える場所がなく、県民や観光客から水辺の空間の設置が強く望まれていた。

コ　ン　セ　プ　ト

「土地の記憶」を継承する大地の舞台

【ランドスケープマスタープラン】

【整備のポイント】

大地の広場　月の舞台
メインゲートから女神大橋を望むと、海の風景を一望でき、月の舞台は、８本のブロンズの柱が場のシンボル性を高めている。

水の庭園　水の劇場
出島バイパス（オランダ坂トンネル）からの湧水を噴水やせせらぎとして利用し、強い日差しの中で「涼」を提供している。

水辺のプロムナード
高い親水性を確保するため、出島のイメージを継承した水路と、それに平行した遊歩道を設け、花と緑が溢れる散策空間を創出した。

照明　舞舞劇場
場所の印象を高めるために、暖かみのある白を基調としたアクティブな演出を行った。

オランダ坂橋（手前）と東山手橋（奥）

宵待橋

風待橋

うみてらし橋（左）とあじさい橋（右）

中島川にかかる橋梁群のアイデアを受け継ぎ、“群”としての存在価値を主張するとともに、景観の主役は海、緑の公園と水路であるとの考えのもと、橋梁は自己主張を抑えた透過性の高いものとした。

委　員　コ　メ　ン　ト　　環長崎港地域アーバンデザイン専門家

- 場所にはその「土地の記憶」、そこでしか作れない空間がある。「鶴の港」と呼ばれ市民に親しまれてきた長崎港に面したこの広大な敷地は、近代日本を築いた立役者が活躍した土地に囲まれている。この文化の種を蒔いた「土地の記憶」を継承し、未来の子供たちに伝える空間として、世界に発信する場として、長崎水辺の森公園づくりに取り組んだ。この公園で新たな文化が芽吹き、世界へ発信していくことを願っている。

（アーバンデザインの観点から工夫したこと）

- 長崎の「土地の記憶」と融合した美しい眺めを確保するため、グラバー園やオランダ坂、女神大橋からの軸線をつなぐらせん軸を意識したランドアートを創生した。
- 春夏秋冬にゴールデンウィーク期間を含めた「五季」を植生コンセプトに、常に魅力的な森を創生した。
- 人々の新たな出会いを誘発し、新しい芸術・情報の発信場として劇場・舞台を創生し、公園全体をミュージアム空間として位置づけ、座るということを目的に創造されたオブジェを設置した。
- 緑の散策空間と休息空間をしつらえ、また潜在植生から選ばれた大木の緑陰空間を、地面の植物などと組み合わせながら、来訪者を誘う空間として創生した。
- 小島のレストランなど、人々が憩い、出会える場となる瀟洒な施設を配置することで、長崎の新たなスポットとしての名所性を創生した。
- 豊かな水量の湧水を生かし、自然との共生を体感できる場として、「水に学ぶ場」を創生した。

事業主体コメント　　長崎県長崎振興局長崎港湾漁港事務所

- 平地が乏しく、都市機能が集中しているため、都市部の環境づくりが大きな課題であり、まちなかの臨海部に展開する緑のオープンスペースを埋立てにより整備した。
  ⇒・かつては臨海部の産業施設立地により一般県民が容易に立ち入ることができない場所であったが、物流倉庫機能の移転調整を行い、また埋立てに批判的な方々に対しては、百年の計でつくる優れたデザインを提供することで調整してきた。

（整備を終えて）

- 平成１６年のグランドオープン以来、都心部の水辺空間として、各種イベントや憩い、交流の場として広く県民や観光客に親しまれている。公園自体が人を呼び込み、愛着を持って利活用されてきたが、オープン以来１０年が経過しているため、施設の老朽化やニーズにあった改良など、継続して利用されるよう創意工夫していきたい。

公　園

園内施設の再配置と集客機能の導入により、
防犯性と景観性を両立

【警固（けご）公園再整備事業】

事　業　概　要　２０１４年グッドデザイン賞受賞
土木学会デザイン賞２０１４最優秀賞受賞

人が多く集まるようになった公園

福岡県福岡市中央区天神２丁目
近隣公園11,382㎡

プロデューサー　：福岡市住宅都市局みどりのまち推進部
（みどり整備課／みどり政策課／みどり管理課）
ディレクター　　：柴田久（福岡大学工学部社会デザイン工学科教授）、警固公園対策会議
デザイナー　　：柴田久（福岡大学教授）、福大景観まちづくり研究室（大坪美沙、原田彩加、竹田恭葉、田浦那月、石橋知也）、
アーバンデザインコンサルタント（大杉哲哉、勝野靖弘）

※所属は、２０１４年４月現在

整　備　の　背　景

かつての警固公園には高い築山や老朽化したトイレ、繁茂した樹木等による死角や暗がりが多く存在していたため、犯罪や迷惑行為の温床となり、夜間にはほとんど人通りが見られない危険な公園であった。また見通しが悪く人通りの少ない園内の通路や施設には、落書きや無許可でのポスター掲示が散見され、景観的にも問題のある状況であった。

コ　ン　セ　プ　ト

見通しを良くする防犯効果とともに周囲に広がる街の景観を園内の魅力として取り込む「防犯と景観の両立」

【整備のポイント】

死角をつくっていた築山を撤去し、中央園路を新たに設け、利用者の往来と見通し向上を図った。

南側園路に死角をつくっていた公衆トイレを移設するなど、見通し改善を図った。

隣接する西鉄福岡（天神）駅ホームなどの視点場から園内が見通せるように、園内の植栽配置を調整した。

中央広場を配置し、イベントの開催場所として利用しやすい空間とした。

円弧状のベンチを芝生内に入れ込み、スケートボードなどの迷惑行為の抑制を図った。

旧公園に対する市民の愛着に配慮し、園内全体をバリアフリーにしたうえで、既設の石のベンチを再配置した。

公園の再整備の波及効果として、周辺商業施設が外壁改修を行い、夜でも明るい公園となった。

委　員　コ　メ　ン　ト　柴田久（福岡大学工学部教授）

- 現代都市において防犯は重要な課題と言える。しかし、見通しを確保すること、夜間の活動を抑制させること等、防犯性を高めることのみに固執した整備は時に飾り気のない、面白みのない都市を作り出してしまう。
- 警固公園は福岡の中心部に位置し、都市の雰囲気を左右する重要な場所であり、防犯対策とともにデザインの工夫を取り入れ、安全安心な場所作りと魅力的な風景づくりを両立し、豊かな都市づくりを行う必要があった。

（今後、長崎県において類似施設の整備を行う際に注意すべき点）

- 利用者や周辺の関係者との調整が必要であり、それを先導し、空間的な検討ができる組織が必要で、公共デザイン支援会議がそれに該当するため、多くの事業で活用してもらいたい。
- 人の動線や活動等の実態調査を行ったり、周辺環境も踏まえて計画をたてることが重要である。

事業主体コメント　福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり整備課

- 市中心部にあるため注目度が高く、利用も多い。にぎわいを求める周辺企業と憩いを求める地域住民らの要望をバランス良く整備内容に結びつけることが課題であった。
  ⇒ ・地域住民や周辺事業者、エリアマネジメント団体、ボランティア団体、大学、警察等と連携し、「警固公園対策会議」を設置し、要望の調整を行った。

（整備を終えて）

- 都心部に市民が安心安全に憩えるオープンスペースを確保したため、天神地区への経済波及効果、都心部における回遊性の向上等に寄与した。特に最大の命題であった「見通しの確保」を実現したことで、市民の安心感は大きく向上した。
- 今後は、都心部の魅力的な中庭、市民の憩いの場として利用され、安全・安心のまちづくりのシンボルとして、回遊の拠点に活用されることが望まれる。